

## ■ウィンドウズ オブ Wind (風の窓)

# AWEA Windpower2013 と GWEC 理事会の報告

JWPA 国際部会長 三菱重工業(株) 上田悦紀

### 1. はじめに

2013年5月6～8日のイリノイ州シカゴでの米国風力エネルギー協会 (AWEA) 主催の Windpower 2013 と、世界風力会議 (GWEC) の理事会に参加したので報告します。

### 2. 米国風力市場

2012年は生産減税 (PTC: 発電量に応じて約2セント/kWhの税金が還付される風力促進策) 失効前の駆込で、1年間に13.1GW、6千台の風車が新規建設され、累積では60GW・5万台に達する活況でした。その反動で2013年以降は市場が大きく低迷する見込みです (図1)。

PTCは1月に2013年末まで再延長が決まったものの2014年以降は不透明です。天然ガス火力発電の売電価格が数セント/kWhまで下がり、風力はPTC無では経済性が出ない状況です。随所でシェールガス憎しの声が聞こえました。

米国には、ナセル・ブレード・タワーで各12以上、構成部品で500以上の工場があり、国産化率は78%、関連雇用は約5万人になります。しかし最近の市場低迷で工場休止・レイオフが相次ぐ苦境に陥っています。

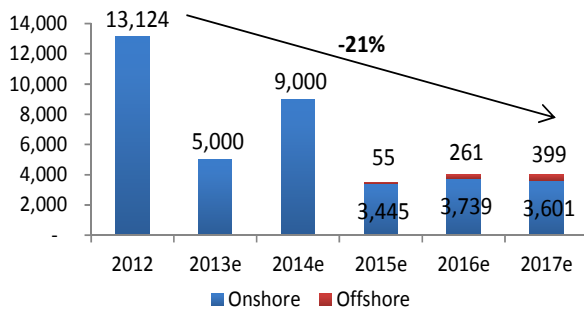
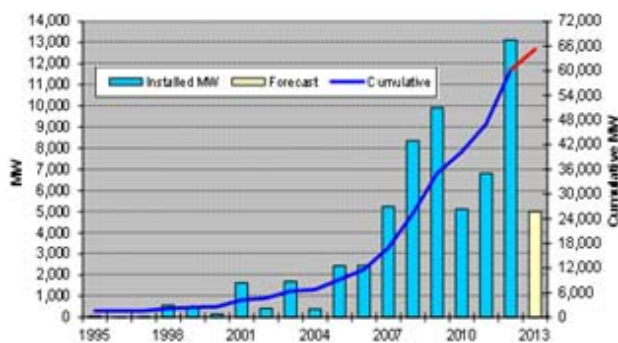


図1 米国の風力導入量 (出典: Navigant)

### 3. 展示場の様子: 市場低迷の影響が顕著

- ① 企業の出展数が少ない (今回は東側のみ。Windpower 2009では東西両方を使用)
- ② ナセル・ブレードの実物や模型は無い (宣伝費節約)、運転保守 (O&M) は展示多し
- ③ 人出が少ない (欧州・中国とは大差あり)
- ④ 商談の様子が無い (風車メーカーで積極的に拡販していたのは Goldwind のみ)
- ⑤ 地元風車メーカーの GE の存在感が薄い (Top sponsor ではなく、役員級の発言も無し)

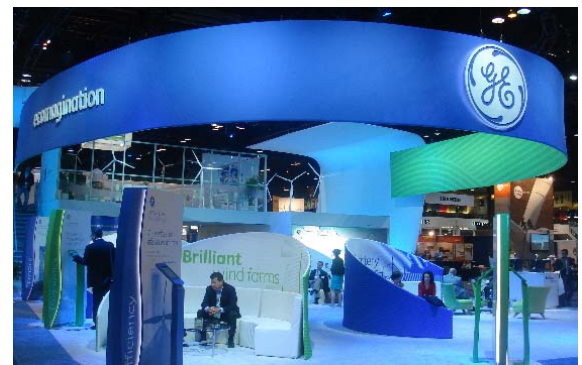


図2 風車メーカー各社の展示ブース (例年より人出が少ない)



図3 米国旗に塗られた Winergy の増速機



図4 今後は O&M ビジネスへ (AkinGump)

表1 最近の Windpower 展示会の規模

開催年	2009	2010	2011	2012	2013
開催地	シカゴ	ダラス	アハム	アトランタ	シカゴ
参加者	3万人	2万人	1.6万人	1.2万人	8千人
出展数	-	1400	1150	-	600

#### 4. GWEC 理事会

Windpower2013 に合わせて 5/7 (火) 12:00 ~14:30 に展示場内の会議室で開催されました。各国から約 20 人、日本は JWPA 永田代表理事、加藤副代表理事、上田の 3 人が参加。

EWEA2013 での新市場開拓会議 (GWEC Market Prioritization Workshop) の報告、風力新組織 (GWO : Global Wind Organization) への対応、反対運動に対抗する広報活動強化、等を討議しました。前回 2012 年のコペンハーゲン開催時に比べると、参加メンバーも少なく、議論は低調で、やはり GWEC は欧州が拠点なのだと感じました。

次回は 10 月の China Windpower 2013(北京)、次々回は 3 月の EWEA2014(ハルビン)、もしくは 5 月の AWEA Windpower 2014(ラスベガス) で開かれる予定です。

#### 5. 最後に：シカゴの風景

シカゴは五大湖畔に摩天楼が並ぶ大都会で、「風の街」(Windy City) と呼ばれています。しかし、年平均風速は余り良くなく、全米 1 の高さを誇るウィリス・タワー (旧名シアーズ・タワー) の展望室から見える範囲には、残念ながら風車は立っていませんでした (図 5)。

市内のフィールド自然史博物館にはティラノザウルス「Sue」の骨格標本 (図 6 : オークションで 10 億円で購入した由)、郊外の科学博物館ではドイツ海軍の U ボートの実物が公開されていました。世界中から科学と資金が集まる米国らしい大都市だと思います。



図5 ウィリス・タワーからミシガン湖を望む



図6 フィールド自然史博物館の「Sue」